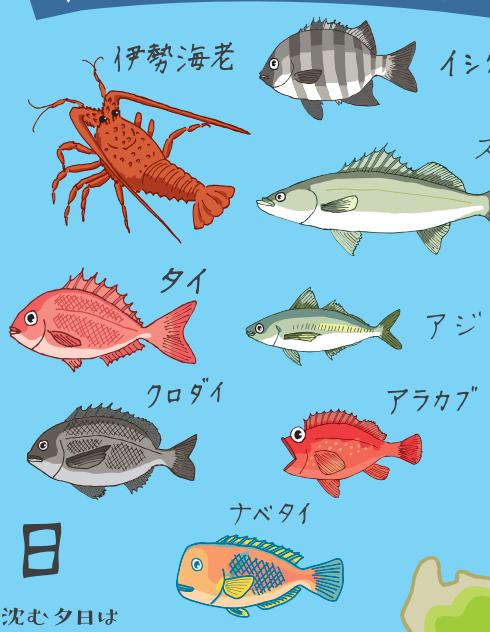
長崎 江島（えのしま）MAP

西海市崎戸町／歴史と今がともにある島

島内にはたくさんの椿の木が自生しています。

江島は崎戸本島と中通島の中間に位置する五島灘の北緯33度に浮かぶ島。面積2.59km²、周囲9.6km。路地を歩くと石積みの塀や巨大なアコウの木がこの島の長い歴史を語りかけてくるよう。浜辺では海を渡る風が感じられます。

江島で水揚げされる魚たち



夕日

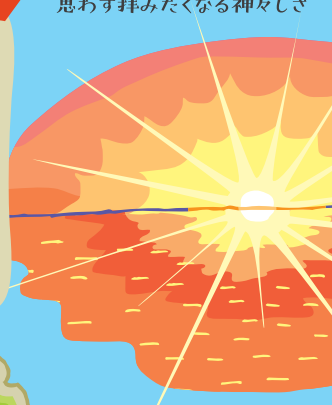
五島灘に沈む夕日は一見の価値あり

大立島の植物群落は県指定文化財に登録されています。

崎戸から江島に向かう途中に大立島と小立島の間を通り抜けます。小立島は横から見るとゴリラの顔に似ています。

朝日

早朝の釣場で目にする日の出は思わず拝みたくなる神々しさ



八幡宮

江島の起源は諸説ありますが、鎌倉幕府末期、北条氏の残党が逃れて隠れ住み、定住したという説が有力だと言われています。島の名前「江島」が鎌倉の江ノ島にちなんだものであること、氏神である八幡宮は、鎌倉の鶴岡八幡宮を鎮守社としていること、古い地名には鎌倉にちなんだ名前があることなどが傍証として挙げられます。江島起源の碑が設置されている八幡宮の境内で江島の歴史を感じてみませんか。

見渡す限り敷き詰められた碁石のような丸みのある石。潮の流れが作ったなだらかな地形も趣があります。この浜では美しい夕日を見ることができます。

かつては畑が広がっておりカンコロに加工し出荷していた時代もありました。

江島の朝を告げるのは善行寺の鐘。小さな狛犬がお寺を守っています。

風よけのために植えられたというアコウの木。島の歴史を感じさせます。

おしりの形に見える島

かわいい羊たちに癒されます。展望台からは丸田港が一望でき、江島の美しさを体感できる場所。

江島の気候条件に適したブルーベリー農園。

防波堤でも魚が釣れます。

ひとつあたり100トン級の消波ブロックがお出迎え

1日に2回フェリーが停泊します。朝は崎戸行き、午後は平島行き。

江島は下水道化された島です。

待合室の壁は、子供たちが描いた絵で埋め尽くされています。

「幻の醤油」と言われている江島手造り醤油。原料は大麦、大豆、崎戸産の塩と水。昔ながらの製法で約10か月もの時間をかけて丁寧に作られた醤油はきれいな琥珀色。各家庭で受け継がれてきた島の味がここにあります。

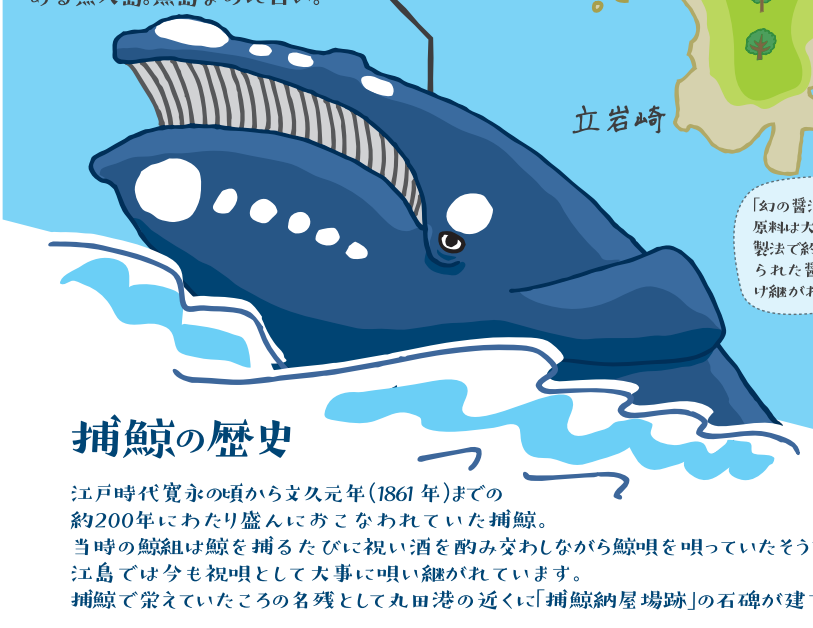
江島くんち

八幡神社の例祭「江島くんち」は毎年9月(旧暦の8月15日前後)に行われる江島で一番盛り上がる行事。奉納される浮立では、顔を白く塗った人々が丸田浜まで笛や太鼓を演奏しながら練り歩きます。八幡神社の社旗を先頭に、露払い、棒振り、獅子、薙刀をふるう「エイヤー」、やっこさん姿で毛槍を担ぐ「ひんようへい」が続きます。八幡神社境内では奉納の踊りも見られます。

恵比須祭り

4月の恵比須祭りでは、大漁旗を掲げた漁船が湾内をパレードします。その後、関係者たちは恵比寿神社で神事を執り行います。

平島と江島のおよそ中間地点にある無人島。黒島なのに白い。



捕鯨の歴史

江戸時代寛永の頃から文久元年(1861年)までの約200年にわたり盛んにおこなわれていた捕鯨。
当時の鯨組は鯨を捕るたびに祝い酒を酌み交わしながら鯨唄を唄っていたそうです。
江島では今も祝唄として大事に唄い継がれています。
捕鯨で栄えていたころの名残として丸田港の近くに「捕鯨納屋場跡」の石碑が建てられています。

フェリーみしま

〔問合せ先〕
崎戸商船 株式会社 0956-25-6118
崎戸港から　約1時間
佐世保から　約2時間15分
※車、バイク、自転車も載せられます

2019年6月新船就航

島内には公共交通機関、タクシー、レンタカーなどの交通手段はありません。
問合せ先：西海市 島の暮らし支援室　電話 0959-37-0122